

事務事業マネジメントシート(平成29年度実績と平成30年度計画)

平成30年 9月 6日 更新

事務事業名		三つの木の家社会教育事業				☒ マニフェスト関連 ☒ 全庁横断課題関連 ☐ 集中改革プラン関連					
総合計画体系	政策	3	教育の健康				所属部	教育委員会事務局教育部	課長名	栗木 清智	
	施策	10	生涯学習の推進				所属課	生涯学習課	担当者名	植田 恵	
	施策の柱	37	学習の啓発と参加機会の提供				所属班	生涯学習班	(内線)	1506	
予算科目		会計一般	款10	項5	目5	事業連番10765	根拠法令	合志市三つの木の家自主事業実行委員会要綱			
終了、開始年度		☒ 29年度で終了 ☐ 29年度から開始				事業期間	☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始年度 18 年度) ☐ 期間限定複数年度 (~ 年度)				
								成果優先度評価結果 : ① コスト削減優先度評価結果 : ⑫			

★事務事業の概要 (PLAN)

【事業の内容】	三つの木の家自主事業実行委員会が実施する社会教育活動について支援を行う事業である。三つの木の家自主事業実行委員会が平成12年度から設置され、施設の有効利用と青少年の育成のため始まった。 ※平成30年度より「三つの木の家維持管理事業（10833）」に統合
【業務の流れ】	三つの木の家での各種自主事業運営の事務局として、実行委員会の事業運営を支援するとともに、事業実施に必要な経費を負担金として交付している。（主な自主事業⇒宿泊自然体験研修、ふれあい交流事業、ジュニアリーダー研修、子ども論語塾等。）業務内容は事業の企画、参加者募集、実施とそれに係る経費の会計処理である。
【主な予算費目】	負担金補助及び交付金、職員給与、職員手当、三つの木の家指導員及び管理員（2名）の配置
【意見や要望】	

1 現状把握の部 (DO、PLAN)

(1) 事務事業の目的と指標		新規・拡充区分	
① 手段(主な活動) 29年度実績(29年度に行った主な活動) (DO)		30年度計画(次年度に計画している主な活動) (PLAN)	
三つの木の家自主事業実行委員会開催（3回）、通学宿泊体験研修2回開催（9月、11月）、ふれあい交流事業3回開催(2月×1回)		自主事業実行委員会負担金交付、三つの木の家自主事業実行委員会開催（3回）、通学宿泊体験研修3回開催（9、11月）、夏休みキャンプ（7月）、ふれあい交流事業3回開催、子ども論語塾開催（5月～3月）、こども体験学習（3回）	
① 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)		(単位) 予算の主な増減の理由	
⇒ ア 三つの木の家自主事業の回数		回	
② 対象(誰、何を対象にしているのか) *人や自然資源等		② 対象指標(対象の大きさを表す指標)	
市民、市外からの通勤・通学者		⇒ ア 人口	
		人	
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)		③ 成果指標(意図の達成度を表す指標)	
生涯にわたって目標・目的をもって学習を行っている		⇒ ア 目標・目的を持って、実際に生涯学習を行なっている人の割合(市民アンケート)	
		%	
*③成果指標設定の理由と30年度目標値設定の根拠			総トータルコスト
学習に親しむ機会があると思う市民が増えれば、学習に参加する機会が十分にあると考えられるため。			全体計画
			～ 年度
			0

(2) 各指標・総事業費の推移		単位	27年度 実績(決算)	28年度 実績(決算)	29年度 目標(当初予算)	29年度 実績(決算)	目標(当初予算)	予定	見込	見込
① 活動指標	ア	回	8	6	8	6				
	イ									
② 対象指標	ア	人	60,008	61,022	60,900	61,652				
	イ									
③ 成果指標	ア	%	35.1	30.6	35	27.2				
	イ									
投資 入 費 量	事業 費	国庫支出金	千円							
		都道府県支出金	千円							
		地方債	千円							
		その他	千円							
		繰入金	千円							
		一般財源	千円	800	2,459	4,221	3,413			
	人 件 費	(A) 事業費計	千円	800	2,459	4,221	3,413			
		(A)のうち指定経費	千円	800	0	0	0			
		(A)のうち時間外、特勤	千円	0	0	0	0			
		正規職員従事人数	人	1	5	6	7			
トータルコスト(A)+(B)	延べ業務時間	時間	50	384	0	756				
		(B) 人件費計	千円	185	0	2,990				
			千円	985	2,459	4,221	6,403			

事務事業名	三つの木の家社会教育事業	所属部	教育委員会事務局教育部	所属課	生涯学習課
-------	--------------	-----	-------------	-----	-------

2 評価の部（CHECK）

*原則は29年度的事後評価、ただし複数年度事業は29年度実績を踏まえての途中評価

目標達成度評価	①29年度目標達成度評価	☐ 達成した ☒ 達成しなかった ⇒【原因】 災害復旧工事により事務所移転等があり、前期の自主事業が例年並みに行なえなかった。
	②30年度目標達成見込み	☒ 目標達成見込みあり⇒【理由】 ☐ 目標達成は厳しい⇒【理由と対策】 定員以上の申し込みがある事業が多く、事業によっては定員を遥かに超える申込者数がある。これを継続することにより、学習に親しむ機会を提供することにつながると考えられるため。
有効性評価	③成果の向上余地	☒ 向上余地がある ⇒【理由】 ☐ 向上余地がない ⇒【理由】 現在、宿泊体験研修などの青少年健全育成に努める事業や、家族等で交流を深めるためのふれあい交流事業やこども論語塾を行っている。現在事業がかなり広がっており人手の確保（職員・ボランティア・講師）に苦慮しており、さらには施設職員の勤務シフト調整に支障が生じている部分もある。そのため、事業内容や期間等の改善や工夫をすることにより、成果の向上を見込める。
	④類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある⇒（具体的な手段、事務事業） ☒ 他に手段がない ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】 ☐ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 他に類のない施設であり、その特徴を活かした事業であるため、統廃合にはなじまない。
効率性評価	⑤事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 現在も多数のボランティアの協力を得ながら事業を進めている。
	⑥人件費（延べ業務時間）の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 【前年度内容】現在も正規職員は必要最小限に抑えており、それ以外では非常勤職員もしくはボランティアの協力をいただいている。これ以上の人件費の削減余地は無いと思われる。
公平性評価	⑦受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】 自主事業の参加者からは参加料を徴収しており、公平である。宿泊体験は対象を小学校4～6年生に限定しているが、限定することにより効果を高めるものであるため妥当である。
役割分担評価	⑧行政の役割分担の適正化	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☒ 役割分担は適正である ⇒【理由】 現在は宿泊体験研修における食事指導を地域婦人会等のボランティア団体、子どもたちの指導を宿泊体験者や大学生等と協力しながら行っている。

3 評価結果の総括（CHECK）

--

4 今後の方向性（事務事業担当課案）（ACTION）

(1) 今後の事業の方向性（改革改善案）・・・複数選択可 ☐廃止 ☐休止 ☐目的再設定 ☐事業統廃合・連携 ☐事業のやり方改善（有効性改善） ☐事業のやり方改善（効率性改善） ☐事業のやり方改善（公平性改善） ☐現状維持（従来通りで特に改革改善をしない）			(2) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>					コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
		コスト																								
		削減	維持	増加																						
成果	向上																									
	維持																									
	低下																									
(3) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題（壁）とその解決策																										